

自動車運転に関するアンケート 調査報告について

(一社)高知県作業療法士会
運転と作業療法委員会
協力者 矢野勇介

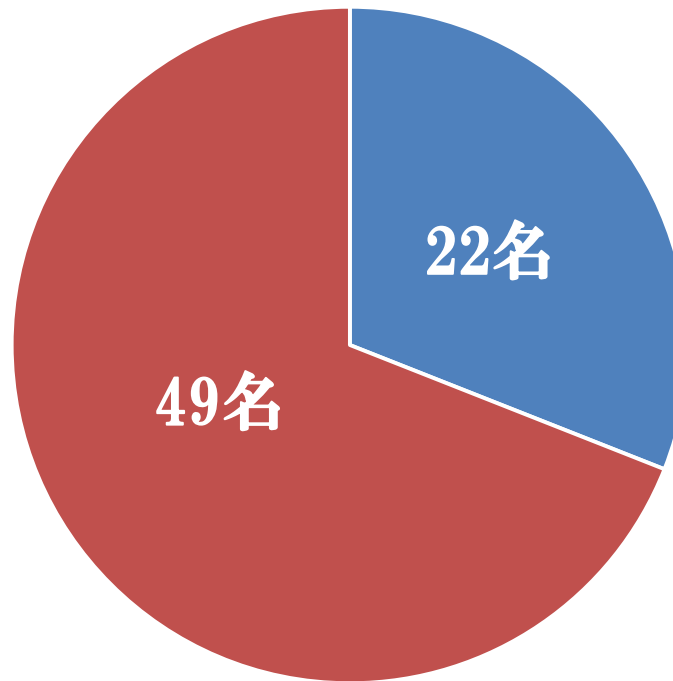
調査方法

- 対象：高知県作業療法士会会員
- 対象施設：会員所属全施設
- 調査期間：平成29年6月21日から平成29年7月5日まで
- 実施方法：会員所属施設へ郵送配布し返信用封筒を同封して回収を行う
- 回収率：48.3% (71/147施設)

結果①

■有効回答数:71施設

Q. 自動車運転支援に関わっていますか (n:71)

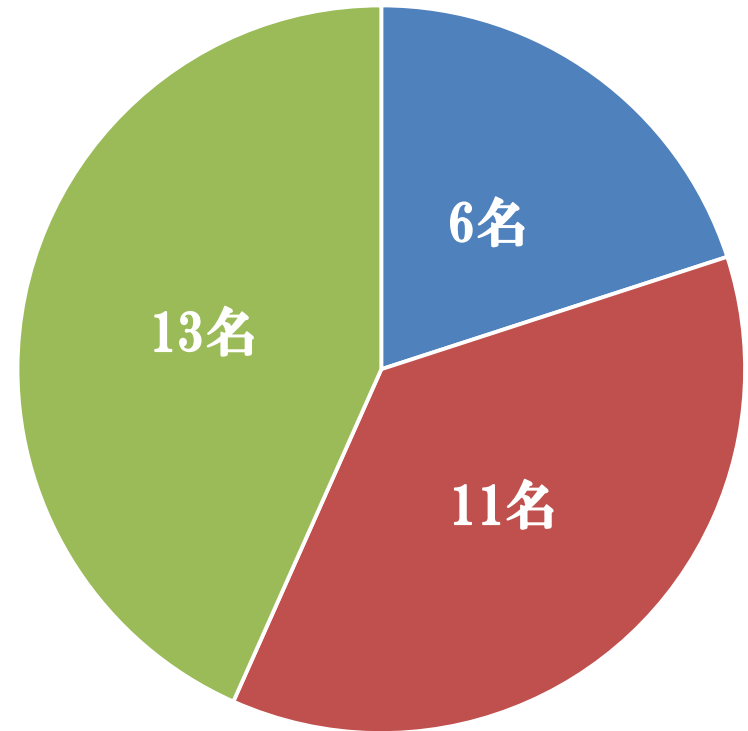
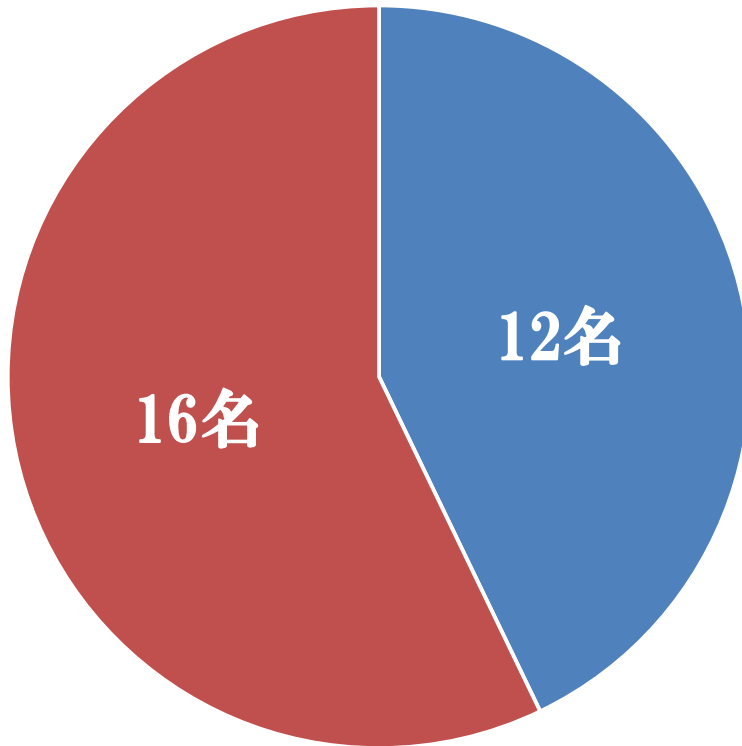


■ はい ■ いいえ

結果②

Q. 自動車運転に関わっている施設数を教えてください(複数回答可)

Q. 自動車運転に関わる時期を教えてください(複数回答可)

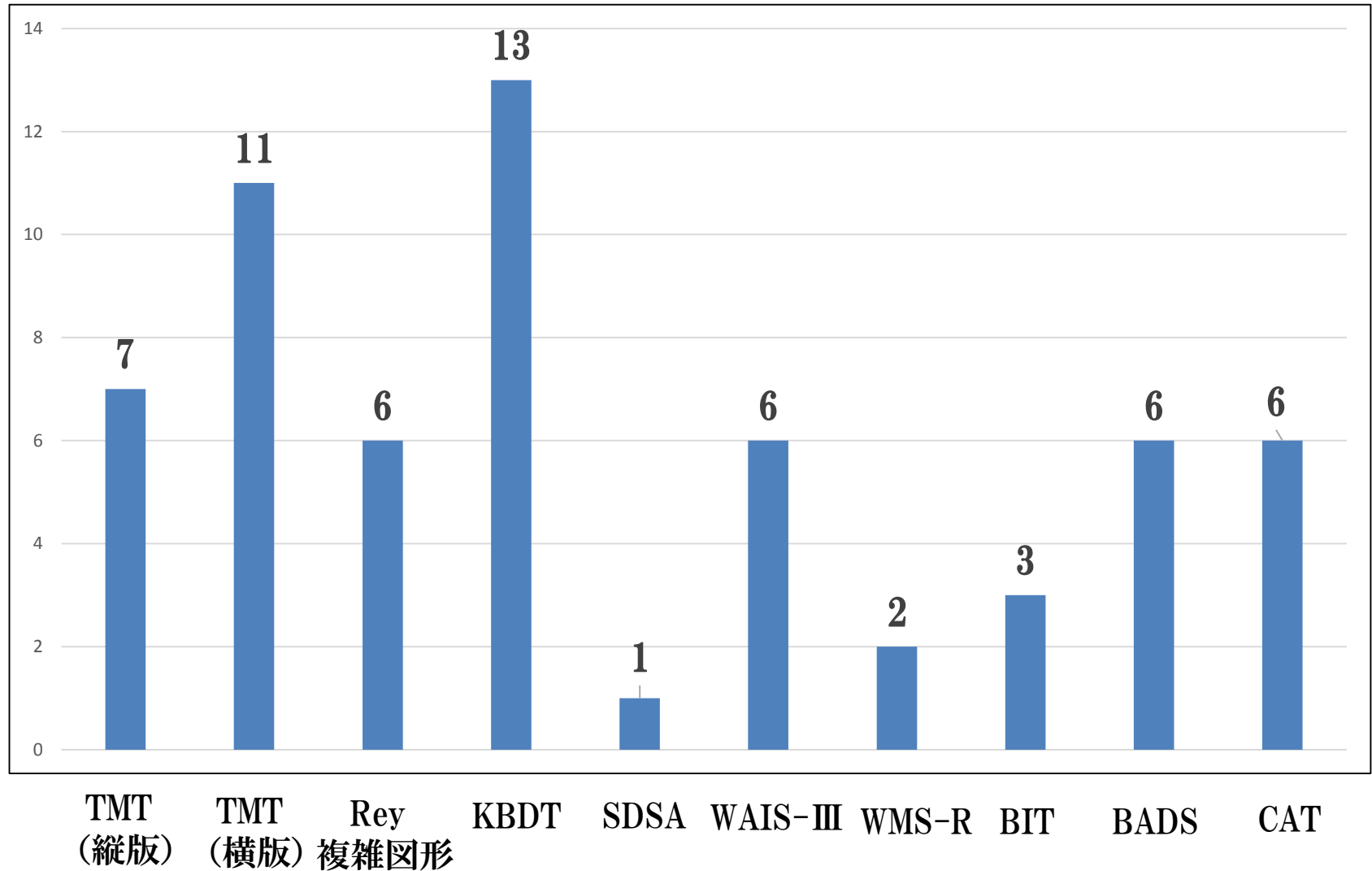


■ 外来・入所 ■ 入院・入所

■ 急性期 ■ 回復期 ■ 生活期

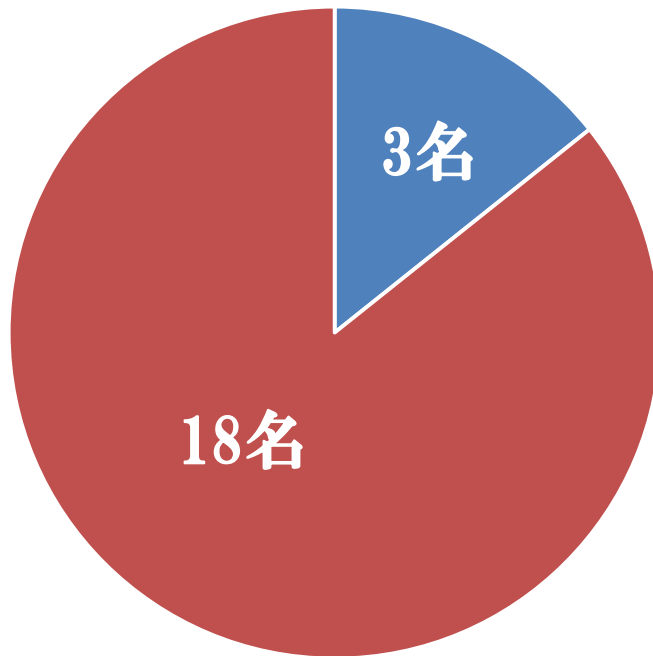
結果③

Q. どのような神経心理学的検査をおこなっていますか
(複数回答可)



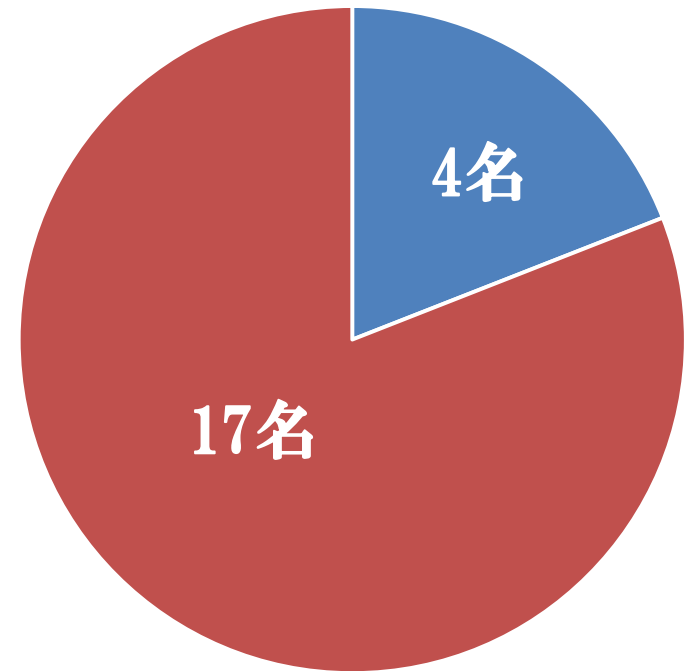
結果④

Q. シミュレーターによる評価を行っていますか (n:21)



■ はい ■ いいえ

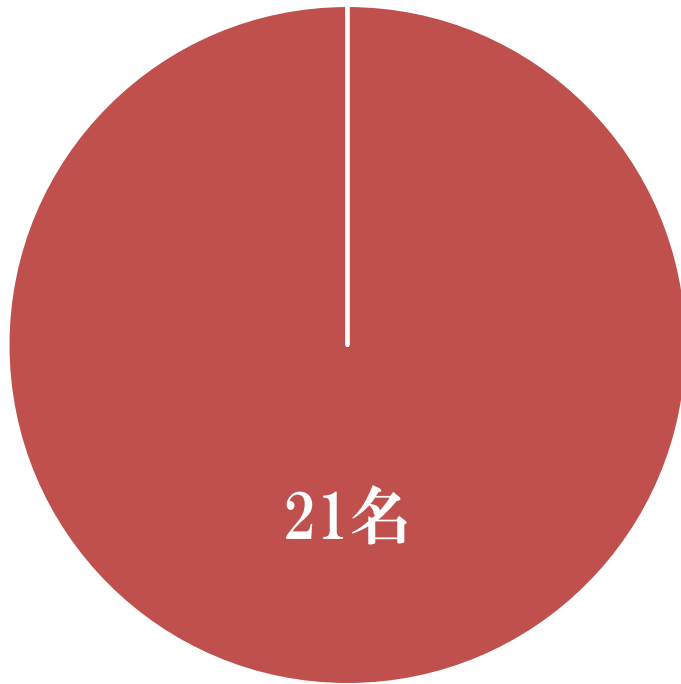
Q. 実車評価を行っていますか (n:21)



■ はい ■ いいえ

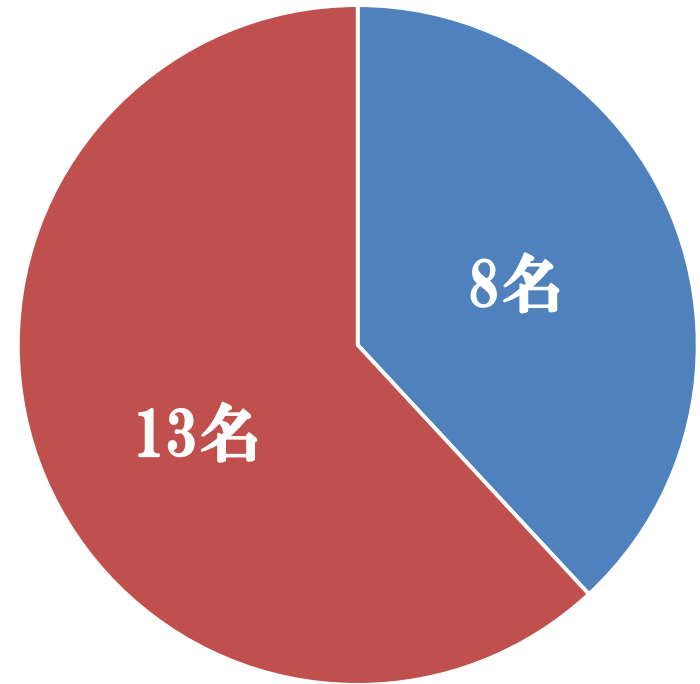
結果⑤

Q. 教習コースを持っていますか
(n:21)



■ はい ■ いいえ

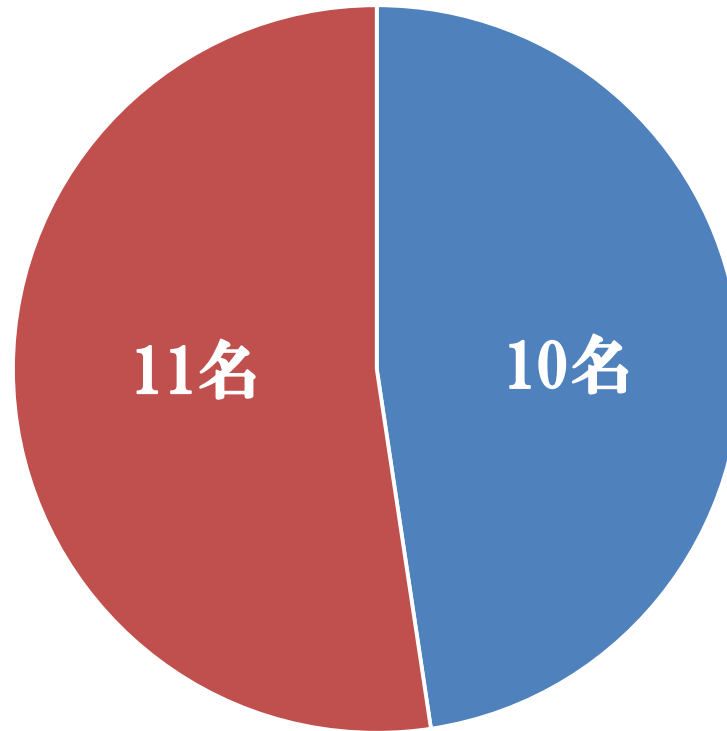
Q. 教習所と連携していますか
(n:21)



■ はい ■ いいえ

結果⑥

Q. 免許センターへの訪問や情報交換を行っていますか (n:21)



■ はい ■ いいえ

Q. 自動車運転に関して、今までの取り組みで難しかった点があれば教えてください。

- ▶本人への説明で、高次脳機能障害や認知機能の低下により、運転再開に何らかの問題がある場合に、本人がそれを理解・納得されるように伝えることが難しい。
- ▶急性期では症状変化も多く判断に迷う。急性期からの直接退院例への支援の流れが分からない。
- ▶免許センターの適性相談を受ける際に診断書の作成が必要で、そのコメント内容を医師（内科医などリハビリにあまり関わりない医師が主治医のことがあるため）に説明することが難しい。診断書の理解や書き方が医師によって違い、よく意見を求められる。
- ▶免許返納にあたっての周囲の協力や理解。
- ▶ミッション希望の方の支援に困ったことがある。
- ▶自転車やバイクの運転に関する相談もあり困った。臨時適性検査に相談しても相談は受け付けるが実車評価などはしていない。
- ▶神経難病の方の自動車運転再開に対する支援、具体的な援助内容に困った。

- ▶免許センターと密に情報交換がしづらい点。
- ▶実車を使っでの評価が行いにくい点。
- ▶施設に基準を判定する評価方法、検査器具がなかったこと。
- ▶手続きの仕方について、情報を得ることが難しかった。
- ▶具体的な評価内容、治療、応用の仕方など。
- ▶自動車運転に関連する高次脳機能障害や評価バッテリーなどは先行研究でいくつか言われているが、標準化されたものがない。
- ▶軽度の高次脳のある方の判断。
- ▶運転に関する上肢機能面や下肢機能が行えていても、判断力や注意力の低下が見られる方に対し、移動手段として適切かどうか、勧めていいのか難渋したことがあった。
- ▶右片麻痺患者さんに対するアクセル-ブレーキ、ウィンカー等の自動車改造の種類が多く選択しにくい。また、バックアップをしてくれるディーラーが少なく試乗が難しい。

Q. 自動車運転に関して、他都道府県士会に尋ねたいことがあれば教えてください。

- ▶DSや実車及びそれを運転する環境がない施設での取り組みや介入方法について。
- ▶自動車運転再開の可否の判断基準。
- ▶バイクの運転再開希望者への対応。
- ▶自動車教習所で実車練習する際、病院側と教習所側で統一した評価バッテリーなどはあるのか。
- ▶DSや実車がない状況では、どのように関わっていけばいいのか。
- ▶免許センターや教習所との情報共有の仕方、どのような情報を提供しているのか。
- ▶免許センターや自動車教習所以外で、他の行政機関や警察機関との関わりはあるのか。警察機関とはもっと関わった方がいいのか。関わるならどの課と関わるのがいいのか。
- ▶改造業者との連携の仕方。
- ▶DS使用困難(DS酔い)な方の評価方法や練習方法について。
- ▶急性期で、どのように対応されているか。
- ▶評価項目、免許センターとの関わり、DS使用困難(DS酔い)な方の評価方法や練習方法について

Q. 自動車運転に関して、今後の課題と考えていることがあれば教えてください。

- ▶ 教習所や免許センターとの連携。
- ▶ 運転に関する制度の理解の周知。
- ▶ 患者様に対して免許センターへ行く必要性の伝え方。理解の得方。
- ▶ 判断基準となる評価バッテリー標準化に向けての取り組み。
- ▶ 認知症の初期の段階で運転をスムーズに自主的にやめてもらうこと。
- ▶ 病院ではできることが限られている。DSや実車を行っていない施設での具体的な訓練内容の提示などマニュアルがあれば嬉しい。
- ▶ 高齢者全般に免許の返納が勧められている中で、高次脳機能の検査を行わないと判断がつかないレベルの対象者に、国や県・市町村としてはその程度免許取得を押し進めていくつもりがあるのでしょうか。評価する側としても、年齢や身体機能、精神・心理機能のある程度の判断ラインが必要かと思います。

Q. 自動車運転に関して、今後の方針があれば教えてください。

- ▶免許センターや障害者支援センターなどと連携し、患者さんご家族が参加できる、自動車運転教室などを開催していきたい。
- ▶全国で行われている自動車運転に関する研修会へ参加し、情報収集や研鑽をしていきたい。
- ▶運転に関する作業療法士の指針を免許センターや自動車教習所などへ情報提供していきたい。
- ▶外来枠で、外部からの自動車運評価依頼を受けていく予定。

Q. 自動車運転に関して、協会へのご質問・要望があれば教えてください。

- ▶改造車を利用するにあたり、制度や業者、連携方法について情報提供していただける嬉しいです。
- ▶既往の脳疾患(高次脳機能障害)があり、運転をして事故を起こした場合の保険適応についての事例や適性検査を受けていない場合などが知りたいです。患者様への説明がしやすくなればと思っています。
- ▶利用者の相談先がなく、相談できる事業者、もしくは団体などあれば嬉しいです。
- ▶高次脳機能障害や認知症、切断、脊髄損傷など、具体的な事例集などがあれば参考になりやすいと思います。(成功例、失敗例、工夫例、改造例など)
- ▶現在、免許センターに看護師などを配置されている県もありますが、是非協会からも行政や免許センターへのOT介入を推し進めて欲しいです。
- ▶車の運転に際し、ある程度標準化されたテストバッテリーがあれば、他施設か病院と違いや差がなく評価できるのではないかと思います。
- ▶郡部でなかなか教習所にも実車練習に行けない、DSも導入できていない施設での自動車運転に関する訓練の一例などのマニュアルなどがあれば嬉しい。
- ▶積極的に取り組まれている施設との連携が県内ではかれたら有難いです。
- ▶基本的な知識や技術に関する勉強会、また症例検討会などがあれば嬉しいです。

まとめ

今回のアンケート調査から、自動車運転再開支援に関わっている施設が22施設あることが分かりました。また、回復期病棟や生活期での介入が多いこと、教習所や運転免許センターと連携をとっている施設が多いことも分かりました。

しかし、その反面統一された評価基準がないことや教習所や運転免許センターとの連携の仕方、運転に関する法制度の知識不足などの課題点も伺えました。

今後、当士会でも運転に関するSIGを立ち上げ、勉強会などを開催し横の繋がりを作り、対象者の安全・安心な運転支援の確立に貢献できればと考えています。

この度は、自動車運転に関するアンケート調査にご協力いただきましてありがとうございました。